

連載

CAMA試験合格者の声

アセットマネジメントの本質に触れて

文=高橋 慶成 中日本高速道路株式会社 技術本部 海外・技術事業部 技術事業課 課長代理
text by Yoshishige TAKAHASHI



私はこれまで、日本道路公団及び中日本高速道路株式会社（以下「NEXCO中日本」）の土木技術者として、高速道路の建設・維持管理、新事業の企画・運営などを携わってきました。直近でのアセットマネジメントに関する業務としては、東名高速道路及び名古屋第二環状道路の点検診断及び維持補修とともに更新計画の策定を担当しておりました。各路線は供用から50年以上、30年以上が経過し、

当初の想定よりも大型車の混入率が高く、老朽化に拍車がかかっている状態でした。そのような中、更新計画の実施は、オリンピックや東日本大震災の復興工事との兼ね合いによる労務単価の上昇や慢性的な人手不足など、計画どおりの実行が非常に困難な状況でありました。構造物の劣化が進行するなか、また「ヒト」、「モノ」、「カネ」が十分に確保できない状況下において、膨大な道路関係アセッ

トを適正かつ効率的に管理していくためには、近視眼的にならず全体を俯瞰し、最適解を見出し、実行していくことが必要であると身に染みて感じていました。当時の東名高速道路及び名古屋第二環状道路での業務そのものが、ISO 55001に規定されるアセットマネジメントであり、まさに「アセットからの価値を実現化する組織の調整された活動」の達成を目指していたと理解したのは、その5年

ほど後、現在の部署でISO 55001に基づくアセットマネジメントシステム（以下「AMシステム」）構築の業務に関わってからのことでした。

現在、私は弊社グループ会社の箱根ターンパイク（以下「箱根TP」）の道路等のアセットを対象に、AMシステムを支援するチームの一員となっています。箱根TPは1965年の開通から55年が経過して老朽化が進んでいることや激甚化する自然災害への対応、少子高齢化に伴う人手不足を見据えた効率的な維持管理・運営といった諸課題に直面しており、持続的な改善に必要な仕組みであるAMシステムを構築するに至りました。

AMシステムの構築を支援するといっても、当初はAMシステムに関する体系的な知識は乏しく、「アセットマネジメント」といった用語自体についても、十分な知見もなく漠然と使用していた状態でした。そのような中、体系的に知識を学ぶ機会を得たのは2020年10月に受験した第5回認定アセットマネージャー国際検定試験（CAMA試験）の受験勉強の過程でありました。まさに、箱根TPでAMシステムの構築に向けて、マニュアルや各種の要領・手順書を整備しつつ、ISO 55001の規格の解釈を関係者一同で日々議論していたところでしたので、ISO

55001の規格の理解がより進んだと考えます。なお具体的に最も受験勉強で役に立ったことは、ISO 55001の規格そのものを通勤時にスマートフォンで自動読み上げして何十回も聞く、まさに「読書百遍義自ら見る」という学習方法でした。規定書本文はやや直訳調であり、数度目を通して意味がとらえにくかったのですが、慣れてくれば、読み上げ速度を倍速、4倍速再生と加速させ、全体を何十回も聞くことにより、全体の構成や各章の位置づけの意味がおぼろげにみえてくるようになりました。アセットマネジメントは「有形・無形のアセットからの価値の最大化を実現する活動全体（まさに経営そのもの）」という本質に触れ、その奥深さを知ることができました。結果、CAMA試験にも合格することができました。

箱根TP及びNEXCO中日本（海外・技術事業部及び総合安全推進部）は、箱根TPのAMシステムにおいて橋梁の耐震補強対策、土木および施設構造物の老朽化更新などに積極的に取り組むとともに、重大事故発生などのリスクに対する予防策を取り入れた維持管理計画を策定するなどが評価され、2021年3月にISO 55001の認証を取得しました。日本の高速道路会社で初のISO 55001認証の取得ということもあり、グループ内でアセ

ットマネジメントについて関心を喚起することができました。その後、グループ内でISO 55001に関する情報サイトの立ち上げたり、毎年行う力量確保のための社内研修では「AMシステムに触れてみませんか？」と社内に広く参加者を募ったり、さらに内部監査員も認証取得部署以外からの希望者が務めたりするなどの取り組みも始めています。

当方のCAMA試験の受験は、まさにAMシステムの構築・ISO 55001認証の取得と同時のタイミングであったため、各種マニュアルの作成のためISO 55001の規格の理解が欠かせず、結果的に並行してCAMA試験の受験勉強ができておりました。ただしAMシステムの構築・ISO 55001認証の取得を想定しないまでも、CAMA試験の受験により、担当する事業について、アセットマネジメントの「有形・無形のアセットからの価値の最大化を実現する活動全体（まさに経営そのもの）」という本質と照らし合せ、示唆を得る所は多いと考えます。当方の事例がCAMA試験の受験への参考になれば幸いです。

たかはし よししげ／東京大学大学院工学系研究科・社会基盤学専攻2002年卒業。日本道路公団（現NEXCO中日本）入社。高速道路の建設・維持管理、新事業の企画・運営などに従事したのち、NEXCO中日本グループの箱根TPの道路のアセットを対象に、AMシステムを構築し、継続的に改善中。